

映画で学ぶ 情報を見極める力 / 第4回

『スポットライト 世紀のスcoop』授業ガイド

一次情報と裏づけ —— 「調べて、確かめて、裏をとる。」

教員用・指導資料（対象：高校生以上）

本資料はAI（Claude / Anthropic）で作成しています。授業でのご利用前に事実関係をご確認ください。専門家の監修ではありません。授業での使用可否・場面の選択・学年の適否は、担当の先生が最終判断してください。

1 授業の概要

テーマ	一次情報と裏づけ（調査報道の役割と、事実を確かめる手順）
教材映画	『スポットライト 世紀のスcoop』（原題 Spotlight／2015年・アメリカ／監督・脚本：トム・マッカーシー）
対象	高校生以上。映倫Gだが、子どもへの性的虐待という重いテーマを扱う（直接的な描写はない）
時間	標準100分（50分×2）。上映128分。厳選クリップ・あらすじ紹介を組み合わせる
中心概念	調査報道／一次情報・複数の裏づけ／問題を隠す組織の構造／速さより確かさ
ねらい	事実を確かめる手順（一次情報・裏づけ・仕組みを問う）を理解し、SNSなどで情報を広める前に立ち止まる姿勢を身につける
準備物	生徒用ワークシート（別PDF）／相談窓口の案内（下記参照）／筆記用具

2 内容への配慮（必ずお読みください）

⚠ 重いテーマの扱い（最重要）

本作は、**聖職者による子どもへの性的虐待**と、それを組織が隠していた問題を扱い、被害者の証言場面があります（直接的な描写はありません）。

- 生徒の中に同様の経験を持つ人がいる可能性に配慮し、**相談窓口の情報**をあわせて伝える（例：24時間子供SOSダイヤル 0120-0-78310、スクールカウンセラー）。
- 特定の宗教全体への偏見につながらないよう、「**組織が問題を隠す構造**」に焦点を当てる。
- 被害の内容そのものを詳しく扱わず、「**事実を確かめる記者の仕事**」を中心に授業を組み立てる。
- 視聴や話し合いへの参加を控える選択肢を用意し、発表は強制しない。

📄 レイティング・著作権について

- 日本の映倫はG。ただし配信版・ソフトにより表示が異なる場合があるため、使用予定の版をご確認ください。
- 授業での上映には教育機関向けの権利処理が必要になる場合があります。本教材の文章はすべてオリジナルで、ポスター・場面写真は使用していません。

3 調査報道とは（予備知識）

発表報道と調査報道

ニュースの多くは、発表や出来事をそのまま伝えるものです。一方、**記者が自ら時間をかけて調べ、隠された事実を掘り起こす報道を「調査報道」と呼びます。**権力や大きな組織の不正をチェックする「番犬」の役割を持つと言われます。

実話の背景

アメリカ・ボストンの地方紙**ボストン・グローブ**の「スポットライト」は、長期の調査報道を担当する少人数のチームです。2002年1月、チームは聖職者による子どもへの性的虐待と、それを教会が組織的に隠していた問題を報じ、**2003年にピューリッツァー賞（公益部門）**を受賞しました。

💡 「見て見ぬふり」をしていたのは誰か

映画は、新聞社自身も過去に情報を受け取りながら大きく報じてこなかったことにも触れます。「一人の悪い人」で終わらず、**社会全体の見て見ぬふりや、問題を続けさせた仕組みに目を向けさせてください。**

事実を確かめる4つの手順（板書用）（板書用）

① 一次情報にあたる

うわさではなく、本人の証言や公式の記録を確かめる。

② 複数の証拠でそろえる

一つの証言だけで決めず、別の資料で裏づける。

③ 仕組みを問う

なぜ問題が続いたのか、組織の仕組みに目を向ける。

④ 急がない

早く報じたい気持ちをおさえ、確実にするまで調べる。

🎯 この授業の到達目標

事実を確かめる4つの手順を説明でき、SNSなどで情報を受け取ったり広めたりするときに、自分が実践できる確認方法を具体的に挙げられる。

4 100分授業の流れ（50分×2）

時間	ながれ	先生の動き・発問
0-10分	導入	「SNSで見た情報を、どうやって確かめる？」と問い、方法を出し合う。相談窓口も最初に案内する。
10-20分	背景	発表報道と調査報道のちがいを、ボストン・グローブの報道の概要を説明（被害の詳細にはふれない）。
20-48分	映画を観る①	新編集長の着任、記録や名簿を調べる場面（クリップ）。
50-72分	映画を観る②	裏づけを固める場面、報道の日の場面（クリップ）。
72-90分	ワーク記入	「事実を確かめる4つの手順」を、SNSの情報に当てはめて考える。
90-100分	共有・まとめ	板書「調べて、確かめて、裏をとる。」で締める。

🌱 まとめ

この映画には派手な場面はありません。描かれるのは、調べて、確かめて、裏をとるという地道な作業です。誰もが発信できる時代だからこそ、「速さより確かさ」を心がけること、そして時間とお金をかけた報道が社会にとってどんな価値を持つかを考えてください。

5 映画の背景知識

原題／邦題	Spotlight／スポットライト 世紀のスcoop
製作年・国	2015年・アメリカ。上映128分。日本公開：2016年。映倫：G
監督・脚本	トム・マッカーシー
受賞	アカデミー賞 作品賞・脚本賞
実話	ボストン・グローブ紙の2002年の報道。2003年ピューリッツァー賞（公益部門）

主なキャストと役柄

- ・ マーク・ラファロ（マイク・レゼンデス役）：ねばり強く取材を続ける記者。
- ・ マイケル・キートン（ウォルター・ロビンソン役）：チームのリーダー。地元で顔が広い分、難しい立場にも立たされる。
- ・ レイチェル・マクアダムス（サーシャ・ファイファー役）：被害者の話に丁寧に耳を傾ける記者。
- ・ リーヴ・シュレイバー（マーティ・バロン役）：外から来た新しい編集長。「よそ者」の目が調査のきっかけに。

編集長のその後

映画で描かれた編集長マーティ・バロンは、その後、アメリカの有力紙ワシントン・ポストの編集主幹を務めました。

※上記の事実は公開情報（映画.com、Wikipedia等）をもとにしています。細部・脚色には諸説あるため、授業前に必要に応じてご確認ください。

6 発問例・見取りのポイント

Q. 記者たちは、どうやって事実を確かめていった？

→ 証言・裁判記録・名簿など、一次情報と複数の裏づけを重ねたことに注目させる。

Q. なぜ問題は、長いあいだ明らかにならなかったのだろう？

→ 組織の隠ぺい、周囲の「見て見ぬふり」、新聞社自身の反省など、仕組みの問題として考えさせる。

Q. SNSで情報を広める前に、どんな「確認」ができる？

→ 発信元・日付・ほかの情報源の確認など、明日から実践できる具体的な方法を挙げさせる。

ワークシートの見取り（評価の観点）

- ・ 事実を確かめる手順を、映画の場面を根拠に説明できているか。
- ・ 問題を個人の悪意だけでなく、組織や社会の仕組みとして考えられているか。
- ・ 自分の情報発信・受信にいかせる具体的な確認方法を挙げられているか。
- ・ 意見の発表は強制せず、書いた内容を尊重する（重いテーマへの配慮）。

7 シリーズ全体像

回	映画	テーマ	目安
1	羅生門	証言はなぜ食い違うのか	中学生～
2	市民ケーン	メディアを持つ者の力	中学生～
3	父親たちの星条旗	一枚の写真がつくる「物語」	中学生～
4	スポットライト 世紀のスcoop	一次情報と裏づけ	高校生～
5	アルゴ	実話映画の脚色	中学生～
6	JFK	事実と主張を見分ける	高校生～
7	ソーシャル・ネットワーク	プライバシーと同意	高校生～
8	監視資本主義：デジタル社会がもたらす光と影	SNSのしくみを知る	中学生～

8 参考資料（主な出典）

スポットライト 世紀のスcoop 作品情報（映画.com） <https://eiga.com/>

Wikipedia「スポットライト 世紀のスcoop」 https://ja.wikipedia.org/wiki/スポットライト_世紀のスcoop

作品：映画『スポットライト 世紀のスcoop』（2015年、監督トム・マッカーシー）

© 2026 FilmEdu AI / 本資料はAIを活用して作成しています。授業でのご利用前に事実関係をご確認ください。専門家による監修ではありません。授業での使用可否・場面選択・学年の適否は担当教員の判断によります。作品の著作権は各権利者に帰属します。授業での上映には適切な権利処理（教育機関向けライセンス等）が必要になる場合があります。内容の誤りにお気づきの際はお問い合わせよりご連絡ください。